



わらしべの里通信

社会福祉法人設立20年を迎えて



理事長 大橋 誠

「わらしべの家」は、平成13年(2001年)に社会福祉法人として設立され、今年で、20年を迎えました。その前身である昭和55年に設立された財団法人から41年になります。現在の「わらしべの里」は、多機能型事業所として、障がい者の就労継続B型と生活介護事業、相談支援事業などに取り組みしており、40人の利用をいただいているところです。この間、栃木市をはじめ関係機関、団体、地域の方々に支えられ今日に至っています。改めて、皆様に感謝申し上げます。

今後は、新たに令和5年度の開所をめざして、利用者の生活の場を支えるグループホームの設置を進めていくところです。

法人名の「わらしべの里」は、日本民話の「人との出会い、心のふれあいを大切にする」ことで、幸せを自ら手でつかむ」という「わらしべ長者」の教えにならって、設立者(前理事長)の金坂直仁氏が名付けたものです。わらしべの里の取り組みは著書「わらしべの里実践記 ボランティア・福祉の原点を求めて」にまとめられています。今後私たちが役員はこの理念を大切にし、多くの



の方々に支えられる、地域に根づいた法人経営に努めたいと思います。今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

社会福祉法人設立20周年にあたって



法人創設者 金坂 直仁

わらしべの里は、財団法人として昭和55年10月に設立し、平成13年10月に社会福祉法人の認可を受けました。そして社会福祉法人から数えると今年で20周年を迎えます。

思い起こせば今から約40数年前「この国には自ら望まなくして体や心にハンディを持った人々がいて、ともにこの国に生きる人として生きる喜びをもつて生きることが出来る場所を作りたい。」と自宅の庭先に地域のお父さん方の協力を得ながらプレハブを1棟建てたことがスタートでした。その後さまざまな人たちの協力を得て現在の施設の建設にこぎつけ、今では毎日約40名の利用者が笑顔でやりがいを持って通う場所となっています。

しかし、当時と比べ仲間が高齢化しその保護者も高齢の方が多く「親亡き後の生活をどのように支えるか」が大きな課題となっています。この課題を解決し仲間も保護者も安心して生活ができるようにするためにグループホームの設置が必要となります。

しかし、私自身は87歳となり今までのように先頭に立って切り開いていく訳にもいきません。これからは法人の役員が力を合わせ、保護者の皆さまや関係者の皆さまのお力添えを頂きながら突き進んでもらいたいと思います。大きく大変な事業ですが、将来の仲間の笑顔を思うと楽しみでもありません。



今後の法人ビジョン



施設長 金坂 尚慶

令和3年の10月、わらしべの里は社会福祉法人となり20周年を迎えます。これもひとえに保護者の皆様、地域の皆様、関係各位のあたたかいご支援の賜と深く感謝しております。また、わらしべの里がこれまで事業続けることが出来たのは、主役である仲間の皆さんの頑張りがあったからこそでもあります。心から感謝しています。そして、これからもご協力をお願いいたします。

現在当法人では、日中活動である生活介護事業及び就労継続支援事業B型を実施しており、毎日元気に各部署で様々な作業に仲間と職員で力を合わせ取り組んでいます。他方、仲間やご家族の高齢化が進み「親亡き後」の課題が目の前に迫っている状況があります。そのため当法人では、これからも仲間や保護者の皆様が安心してこの地域でいきいきと楽しく生活していくための選択肢の一つとして、令和5年度中のグループホームの開設を目標に様々な取り組みを進めているところであります。また、本体の建物についても建設から30年を超え設備の老朽化等の問題もあることから、継続的なサービス提供の確保するため、中長期的な視点での補修工事や建て替え等の検討を進めています。そして、コロナ禍の今現在は仲間の皆さんの健康と安全を第一に、日々事業を運営してまいります。

「これからも法人の理念である「夢・笑顔」を合言葉に、皆さんに「今日も楽しかった。明日もわらしべで頑張るぞ。」と思っただけのように職員一同頑張っ参りますので引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

義弟と「わらしべの里」

保護者 平本 重子

法人設立20周年、おめでとうございます。義弟は中学を卒業してから約10年間、3つの会社で働きましたが、そこではいじめにあつて辞めざるを得なかったとのこと。義父母も辛かったと思います。

私が平本家に嫁いだ時は、そのような時期でした。義弟はいつもおどおどして自信のない様子で、落ち着きがありませんでした。

「わらしべの里」に通うようになってからの義弟は、義母が作るお弁当を持って毎朝、元気に出かけていました。保護者の会も活発で、様々な活動をしていました。新年会や1泊の家族旅行などもあり、義弟は嬉しそうに出かけていました。「わらしべの里」では、海外旅行にも連れて行ってもらい、家族では出来ないような経験もさせていただきました。

義父母は亡くなってしまいましたが、今も義母と約束した紙が部屋に貼ってあります。その頃、義弟は土日にになると、1日中何処かに出かけたり、黙って家を出たり、猛スピードで自転車を走りまわして困らせていたようです。それらをしない事を約束し、約束を破ると「わらしべの里」に行けなくなる。と、最後に書いてあります。「わらしべの里」に行けなくなることは、義弟にとっては1番辛い罰だったようです。

「わらしべの里」にお世話になるようになって、約37年が経ちました。仕事があり友だちがいて、理解ある職員さんがいる「わらしべの里」は、彼の豊かな生活の全てであります。これからも、どうぞよろしく願ひいたします。

20年を振りかえって…想いでのアルバム



2002 親子旅行 群馬県にて

【法人沿革】
 1977年（昭和52年）
 とちぎ子ども家設立
 1980年（昭和55年）
 財団法人わらしべの里設立
 1984年（昭和59年）
 財団法人日本宝くじ協会より
 配分金を受け竣工
 2001年（平成13年）
 社会福祉法人わらしべの里設立
 2006年（平成18年）
 わらしべの家第2作業所改修
 2011年（平成23年）
 就労継続支援事業（B型）に移行
 2018年（平成30年）
 就労継続支援事業B型を定員20
 名、新たに生活介護事業定員14
 名として開設し、多機能型事業
 所となる



2002 パソ工房作業



2007 カルブルとちぎ発表前集合



2009 春のお花見会にて



2012 クリスマス会



2017 春のお花見会にて



2021 地域交流活動としてごみ拾いの実施



作業内容のご紹介 ～自主製品事業 さをり織り～

【今回の記事は、パソ工房所属の仲間・ペンネーム：PORRがお伝えします】わらしべの家には、自主製品事業という部署があります。そこでは主にさをり織り作業に取り組んでいます。さをりを織る仲間たちの姿は、昔話の鶴の恩返し of 機織りのシーンを想像していただくとイメージしやすいと思います。

うつつりしてしまふほどきれいでカラフルなさをり織りでは、きれいでカラフルな糸がたくさんあります。同じグリーンでも濃いグリーンから薄いグリーンまでの色が揃っているのです、とてもきれいです。少し大げさですが、うつつりしてしまふほど鮮やかです。このカラフルできれいな色のなかから、自分の好みの糸や経系に合うような糸を選び、世界で一反だけの反物を織っていきます。

きれいなだけの世界ではありません

比較的、自分のペースで作業を進めていきますが、その反面、“自分自身に取り組み意欲と姿勢を継続して保つ力”が必要になります。甘えた心が顔を出すと、メリハリがなくなり、ただだらだらと過ごしてしまうことになり、一向に織り進められないことにもなりかねません。意外に強い意志と精神力が必要な作業で、向き不向きがあるようです。

むずかしい整経作業…でも、楽しみがあります

織り終わると、整経作業という経系をつくる作業があります。こちらの作業は、細かい工程が多く、ミスも起こりやすいため、2〜3人で行います。根気が必要な工程ですが、経系の配色を決める大事な工程でもあるので、どんな色見になるのかと、楽しみな部分でもあります。



社会の一員として活躍中
仲間たちが手間暇をかけて織った反物はとてもきれいです！経系は同じでも横糸の色を変えただけでまったく違う表情になります。このとてもきれいな反物を職員さんたちがいろいろな商品に仕立ててくれます。ペンケース・ポーチ・がま口の財布・通帳ケース・コースターなどの商品になり、お客様の手に渡ります。この商品の代金から、必要経費を差し引いた分が仲間たちへの工賃（給料）として支払われるのです。広い社会のほんの片隅で、仲間たちは社会の一員として活躍しています。

社会福祉法人20周年、おめでとう
編集後記
社会福祉法人20周年、おめでとう
ございます！
法人になり、変わったところはいろいろありますが、心に残っていることは、給食がでるようになったことです。それまでは、母が作ってくれたお弁当を毎日持参していました。お弁当も良かったけれど、みんなで食べる温かい給食の味は格別です。
そして、わらしべの家もどんどん発展してきました。送迎車両が増え、新しい仲間もこの20年の間にたくさん増えました。陰になり日向になり支えてくださった金坂直仁前理事長をはじめ、わらしべの家に携わってくれたすべての皆さんのお陰で、僕たちは今、こうして働くことができます。感謝です。これからもずっとわらしべの家に通いたいのです。（範）



社会福祉法人わらしべの里

『わらしべの里通信』第55号(通巻69号)
※ 財団法人時代から数えて第69号となります
発行元 社会福祉法人わらしべの里
発行責任者 大橋 誠
〒328-0011 栃木市大宮町2708-3
電話 0282-27-1627
Fax 0282-27-1675
E-mail warashibenosato@cc9.ne.jp (事務所)
https://www.warashibenosato.com

わらしべの家

検索